

## シラバス参照

## 海藻の観察と海洋観測実習

科目コード	2697750	授 業 概 要
学習センター	高知学習センター	
学習センター コード	39A	
クラスコード	K	
科目名	海藻の観察と海洋観測実習	
科目区分	専門科目: 自然と環境	
ナンバリング	320	
定員	20名	
担当講師	タナカ コウキ 田中 幸記 (高知大学技術専門職員)	
日程 実施時間	2026年11月28日(土)第1時限 09:30~11:00 2026年11月28日(土)第2時限 12:00~13:30 2026年11月28日(土)第3時限 13:40~15:10 2026年11月28日(土)第4時限 16:00~17:30 2026年11月29日(日)第1時限 09:30~11:00 2026年11月29日(日)第2時限 11:30~13:00 2026年11月29日(日)第3時限 14:00~15:30 2026年11月29日(日)第4時限 16:00~16:45 2026年11月29日(日)試験・レポート等 16:45~17:30	
実施会場	この授業は、【★高知大学総合研究センター 海洋生物研究教育施設】で行います。	
	<p><b>【授業内容】</b> 高知大学臨海実験所の調査船「豊旗丸」に乗船して、ロープワークや採水器・採泥器などの観測機器の取り扱いを習得したのち、受講者自らが海洋観測を行う実習形式の授業です。実験室では顕微鏡を使い、様々な海藻の観察を行うほか、海藻押し葉標本を作製します。教室内で行う講義では、高知県沿岸での海洋温暖化の現状や、水温上昇に伴う海藻植生の変化、磯焼け対策の取り組み、海藻の陸上タンク栽培について紹介します。また、臨海実験所で行われている研究活動や飼育施設の見学も行います。</p> <p><b>【到達目標】</b> 調査船上において、海洋観測に必要な採水器や採泥器の取り扱いを習得し、観測で得られたデータを説明できるようになる。高知県沿岸での海水温上昇が、海藻植生に与える影響について理解し、説明できるようになる。藻場が衰退する「磯焼け」の現状や発生原因について理解し、磯焼けから回復するための取り組みや陸上タンク栽培について説明できるようになる。</p> <p><b>【授業テーマ】</b> 第1回 臨海実験所の活動紹介と施設見学 第2回 調査船での観測実習1 第3回 調査船での観測実習2 第4回 土佐湾の環境と海藻の分布状況 第5回 観測結果の解析と海洋温暖化 第6回 藻場の変化と磯焼け対策 第7回 海藻の観察 海藻の観察と標本作成 第8回 海藻の陸上タンク養殖</p> <p><b>【学生へのメッセージ】</b> すぐそこに、本物の海がある。臨海実験所はフィールド研究の最前線です。調査船に乗って海の環境を体感して観測し、高知県沿岸で起きている海洋温暖化に伴うダイナミックな海藻の変化について学びましょう。</p> <p><b>【受講前の準備学習等】</b> 事前学習として、世界で起こっている温暖化の影響について、本やインターネット等で調べて下さい。 授業で学んだ後には、自分の身の回りにも目を向け、温暖化などの環境変化が、そこに住む生物たちに何らかの影響を与えていないか探して発見してみてください。</p> <p><b>【成績評価の方法】</b> 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。</p> <hr/> <p><b>【受講者が当日用意するもの】</b> 押し葉標本の送料140円 船上で使用する運動靴または長靴 レインコートなどの雨具(傘のみは不可) 酔い止め(必要な参加者のみ)</p> <p><b>【教科書】</b> 教科書は使用しません。</p> <p><b>【その他(特記事項)】</b> 「学生教育研究災害傷害保険」加入者を対象としていますので、未加入の方は必ず前日までに最寄りの学習センターにて加入してください。(面接授業開設科目一覧(P.5参照)) 船上での実習があるため、天候等の状況に応じて時間割を変更して行う場合があります。 乗船する際には岸壁との間に多少の隙間があり、船内には段差があります。また、波による揺れも予想されるため、それらの状況でも歩行や活動が可能な方に限ります。 屋外や船上での活動が可能な服装で参加して下さい。</p>	

閉じる